

## 9 個に応じた指導に評価をどう生かせばいいの？



小テストで子どもの理解度を把握し、授業後、再テストをしたり、個別の課題を出したりしています。(初任者の声)

学習前に評価したり(診断的評価)、学習後に評価したり(総括的評価)したことを基に、個別の対応を考えることに加え、学習過程での評価(形成的評価)を大切に、フィードバックすることで、子どものよさや可能性が更に伸びます。

個に応じた指導や支援では、多様な評価を子どもの学習状況の的確な把握に生かすことが大切です。



### 子どもの学習状況の的確な把握

子どもの学習状況の把握には、異なる方法や様々な評価者による多様な評価を組み合わせるとともに、評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中で位置付けて実施することを心掛けましょう。

#### <様々な評価方法>

○ 特長 △ 留意点

#### 【観察による評価】

- 記述シートや完成した作品では読み取れない学習状況を見取ることができ、学習過程での子どもの変容を把握できます。また、即座に指導に生かせます。
- △ 評価の際には視点を明確にするようにしましょう。

#### 【制作物による評価】

- 制作物に寄せた子どもの目の付けどころやこだわりなどを評価できます。
- △ 複数の情報から進歩の状況を的確に把握するようにしましょう。

#### 【ポートフォリオを基にした評価】

- 子どもが主体的・計画的に記録等を集積したポートフォリオを評価することで、問題解決の過程や探究の過程を詳しく把握することができます。
- △ ただの集積物にならないよう、適宜資料の並べ替えや取捨選択をするなどの整理をさせ、自己の学習を見通し、振り返る機会を設けましょう。

#### 【パフォーマンス評価】

- 一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動する機会(発表やインタビュー、プレゼンテーション、レポートなど)を設定し、その力がどのように発揮されるかを評価することを通して、身に付いた力を見取ることができます。
- △ 「おおむね満足できる」状況(評価B)を具体的に設定し、子どもと共有しておきましょう。

## 個に応じた指導や支援の実践

形成的評価を生かし、個々に対応した指導をすることが大切です。

### 1 机間指導による個別支援

机間指導では、一人一人の学習や作業の進み具合を確認しながら、目標に対する評価をすると同時に、個に必要な支援や助言ができます。

- ねらいを持って机間指導を行い、気になる子ども、特に課題を抱える子どもへの対応をしましょう。
- 子どものつまずきを想定し、ヒントカードを何種類か用意するなど、個に応じた手立てを事前に考えておきましょう。
- 知識・技能だけでなく、意欲や態度等の情意面の変容にも目を向けましょう。
- 子どもの小さな変化を見付け、褒めることで自信を持たせましょう。

### 2 習熟度に応じた複数の問題プリントの作成

基礎・基本問題のプリントから応用・発展問題を含んだ問題を用意し、難易度の低いものから高いものへと順に取り組めるようにしましょう。このことにより、学力の定着が不十分な子どもは基礎・基本を固めることができ、習熟度の高い子どもは、思考力や応用力を高めることができます。

### 3 少人数指導／チーム・ティーチング

少人数指導やチーム・ティーチングは、子ども一人一人に応じた対応をするための効果的な指導形態の一つです。集団編成において、各集団が同質となるように分けるか、異質（習熟度別、課題別、学習方法別）となるように分けるかなど、様々な指導形態を教科の特性や子どもの実態に応じて使い分けたり、組み合わせたりしながら、個に応じた指導を進めることが大切です。

- 少人数指導においては、診断的評価を基に、どの教科の、どの単元で、どのような個人差に応じた学習に適應するか、よく検討しましょう。
- 習熟度別に少人数指導を行う場合には、子どもの心理的な面へ配慮するとともに、保護者の理解を得られるように説明しましょう。
- チーム・ティーチングでは、多くの視点から子どもの実態を把握することを心掛け、教師の専門性や特性を生かした創造的な授業を実践しましょう。

評価が変われば授業が変わり、子どもが育ちます。複数の評価者で評価について検討することで、教師自身の評価力を高めましょう。